

# 2020年3月期

## 決算説明会資料



2020年5月27日

ヤマハ株式会社

# 決算発表のポイント

## 決算概要

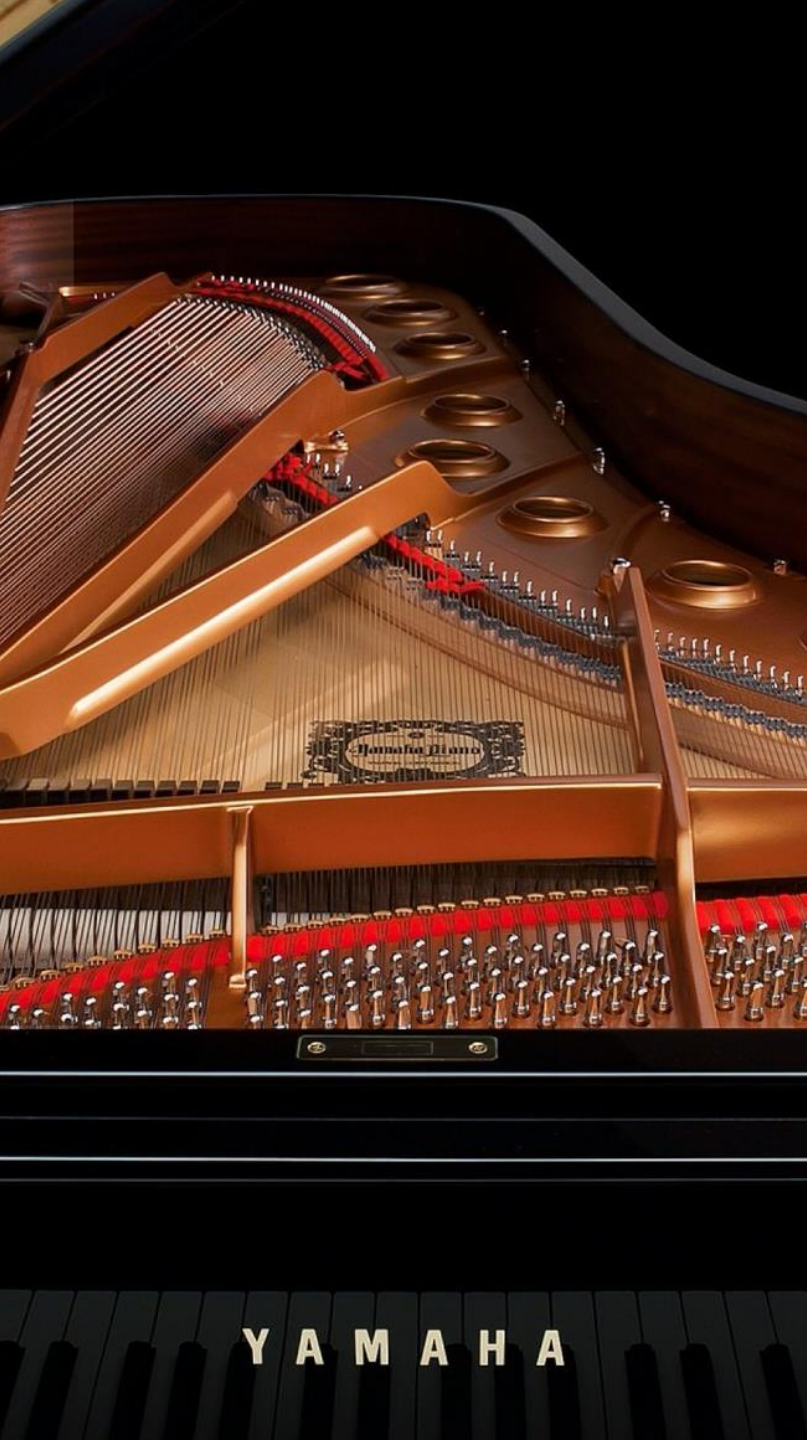
### 【20/3月期 実績】

- ・ 対前年減収減益。新型コロナ、為替影響、部品・装置事業の市況低迷が主因
- ・ 売上収益は、楽器が堅調に推移してきたが、新型コロナ影響受け減収
- ・ 事業利益は、新型コロナ影響で減収減産、一時費用もあり減益
- ・ 当期利益は、事業利益減に加え、操業停止損、固定資産の減損損失を計上したことから減益

## 業績予想

### 【21/3月期 通期予想】

- ・ 新型コロナ影響の不確実性が高く、合理的に算出可能になった時点で開示



# 1. 決算概要

# 業績概要

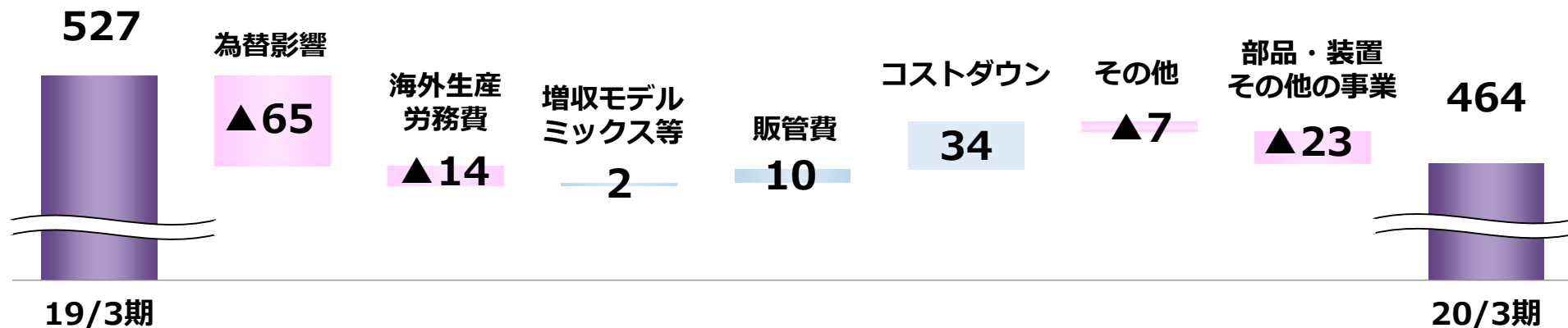
	19/3		20/3		前期比	
	(億円)					
売上収益	4,344		4,142		▲201	▲4.6% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)	527 (12.1%)		464 (11.2%)		▲64	▲12.1%
当期利益 <sup>*1</sup>	403		346		▲57	▲14.2%
為替レート (円)						*2 ▲1.6% (為替影響除く)
売上収益 (期中平均)	US\$	111	109			
	EUR	128	121			
利益 (決済レート)	US\$	111	109			
	EUR	131	122			

\*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

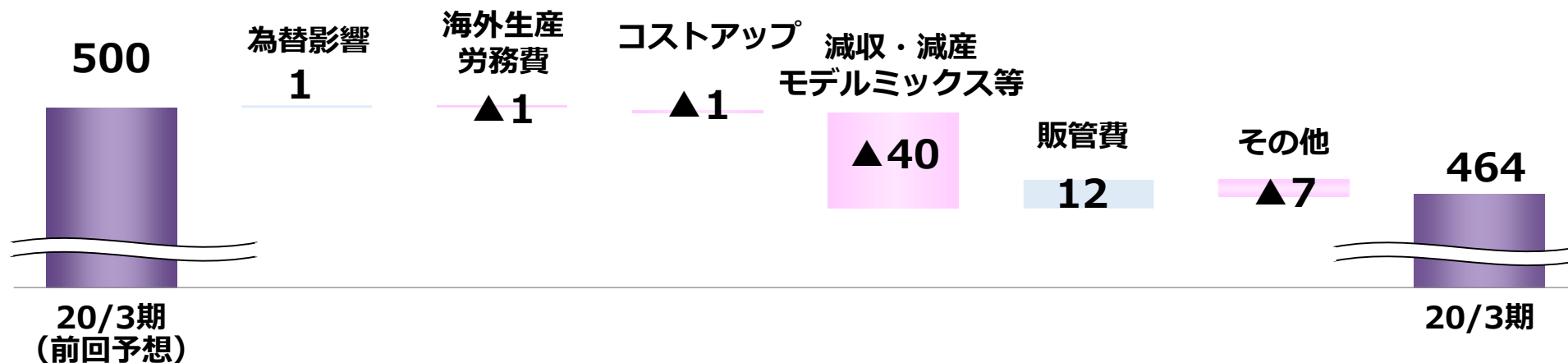
# 事業利益増減要因

## 前期との比較

(億円)



## 前回予想との比較



# 事業別業績概要

(億円)

		19/3	20/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	2,795	2,694	▲101	▲91
	事業利益	408	378	▲31	▲48
	事業利益率	14.6%	14.0%	▲0.6P	
音響機器事業	売上収益	1,201	1,144	▲58	▲38
	事業利益	96	86	▲10	▲17
	事業利益率	8.0%	7.5%	▲0.5P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	348	305	▲43	▲1
	事業利益	23	0	▲23	▲0
	事業利益率	6.7%	0.1%	▲6.6P	



# 新型コロナウイルス感染症による影響について

## 20年3月期 新型コロナによる売上収益への影響

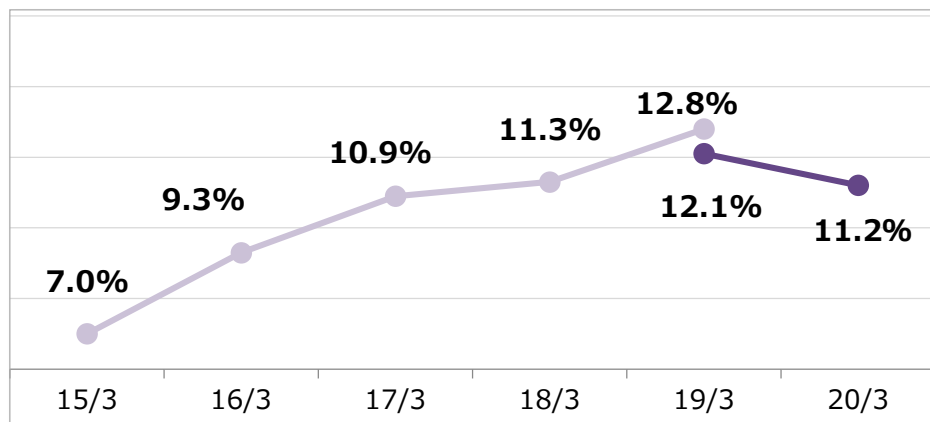
(億円)

新型コロナウイルス影響	日本	北米	欧州	中国	その他	合計
楽器事業	▲29	▲17	▲4	▲41	▲8	▲99
音響機器事業	▲3	▲15	▲6	▲8	▲3	▲35
部品・装置、その他事業	▲3	—	—	—	—	▲3
合計	▲35	▲32	▲10	▲49	▲11	▲137

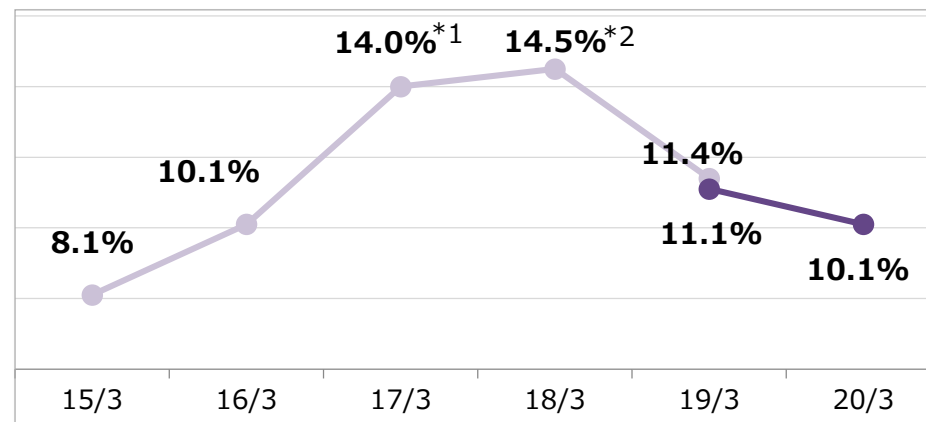
\*2020年5月7日発表に同じ

# 主要経営数値

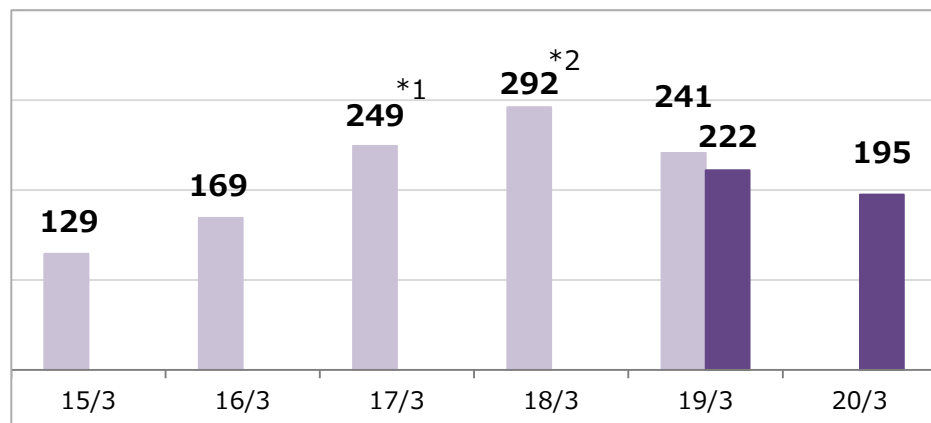
## 営業・事業利益率



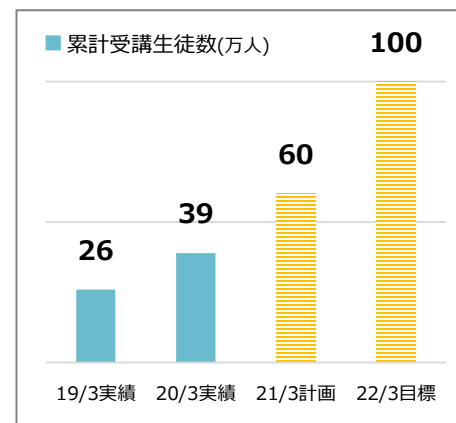
## ROE



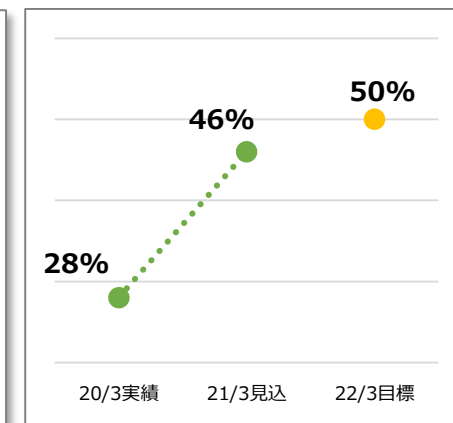
## EPS (円)



## 【器楽教育普及活動の推移】



## 【認証木材使用率の推移】

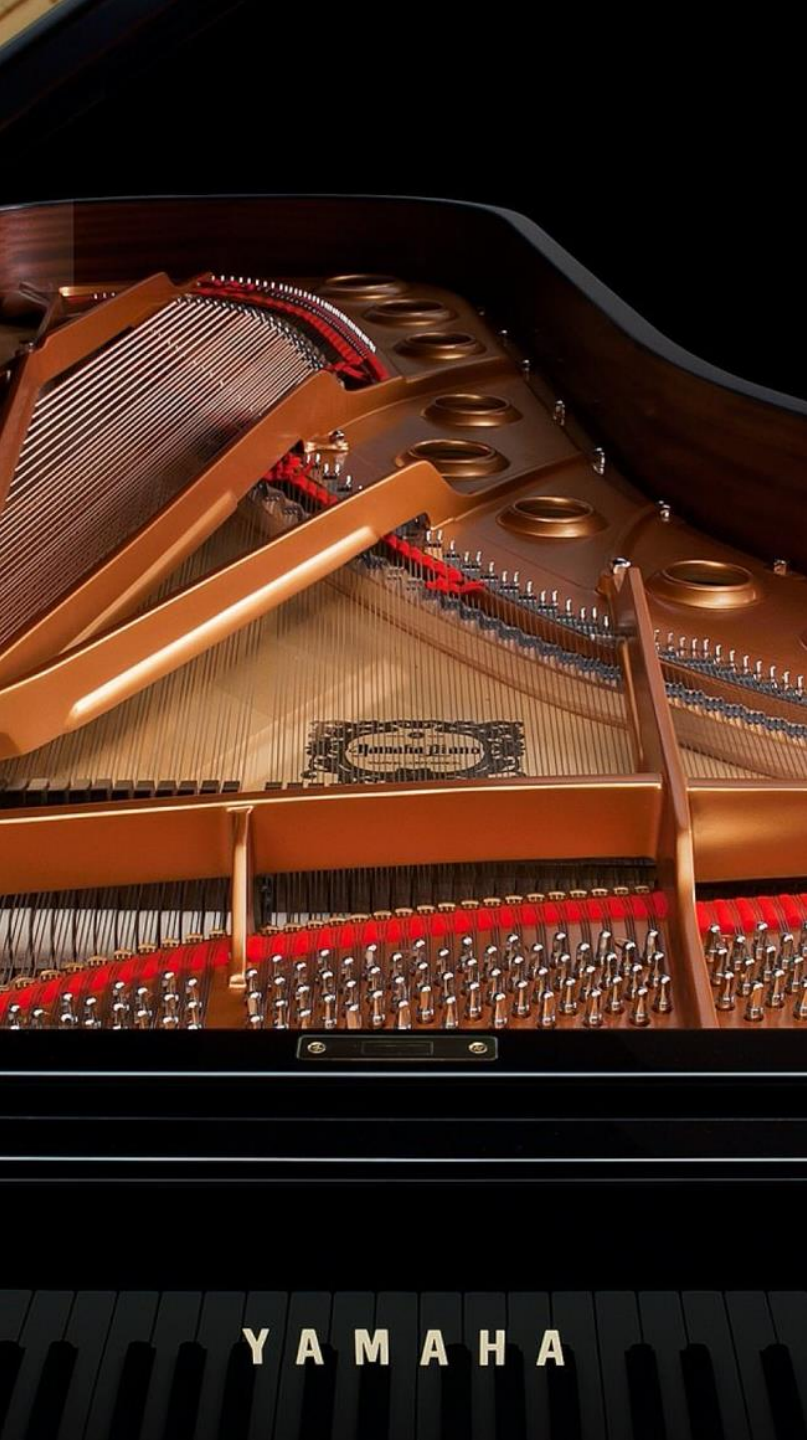


\* 15/3期~19/3期 日本基準(■)、19/3期以降 IFRS (■)で表記

\*1 繰延税金資産計上を含む

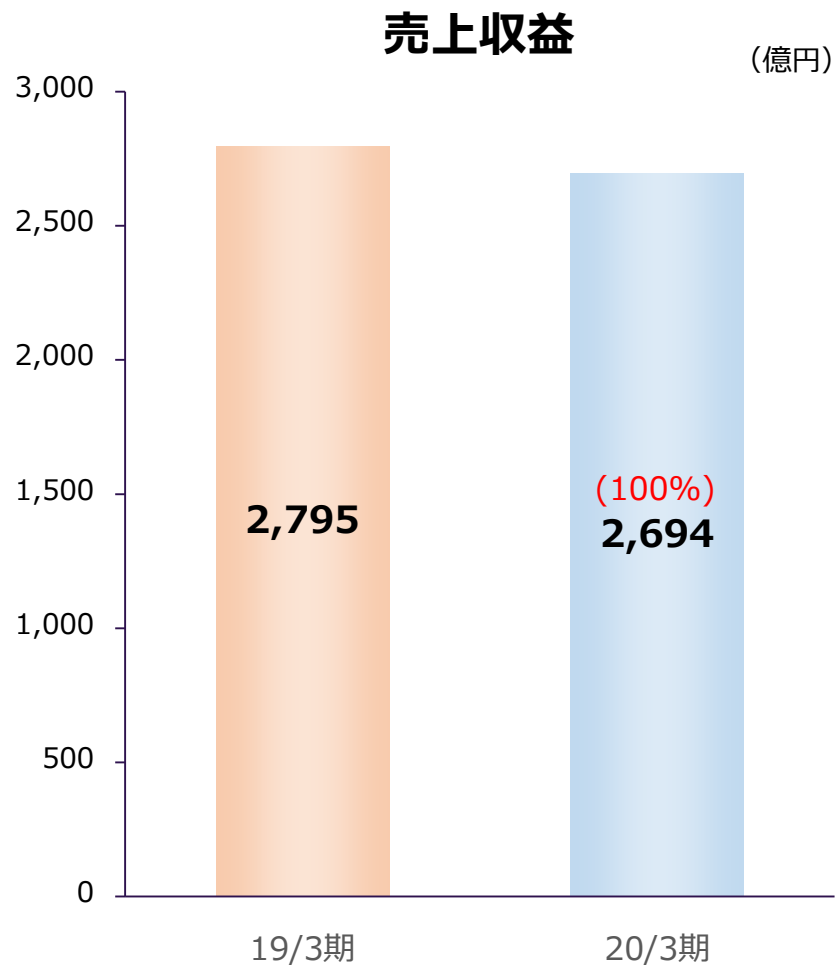
\*2 ヤマハ発動機(株)株式の一部売却による売却益を含む





## 2. 事業別概要

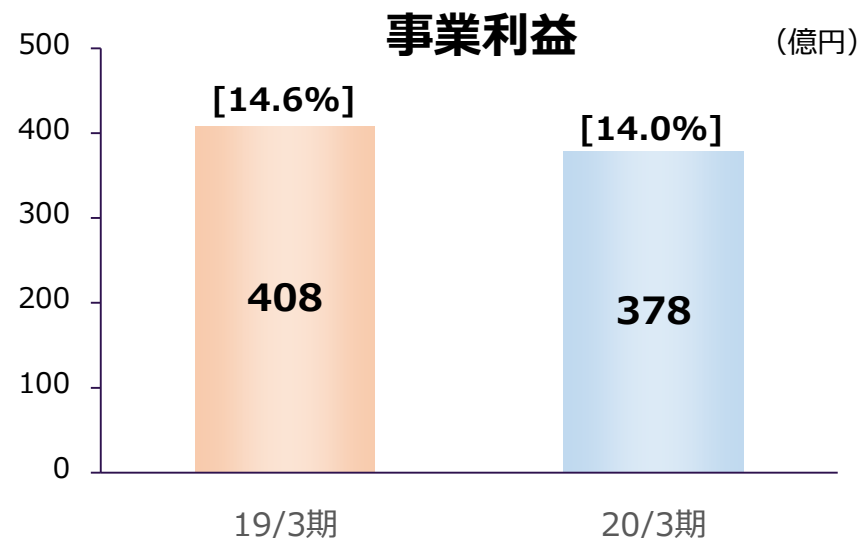
# 売上収益・事業利益



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

**[20/3期] 堅調に推移してきたが新型コロナで対前年減収**

- ・ピアノは中国での新型コロナ影響や店舗販売比重高く減収、Eコマース活況により電子楽器は増収、管楽器は日本除き増収、ギターはEコマースが伸長し全地域で増収
- ・地域別では日本除き増収。欧州、新興国は想定通り



[ ]内は事業利益率

# 主要商品 販売状況

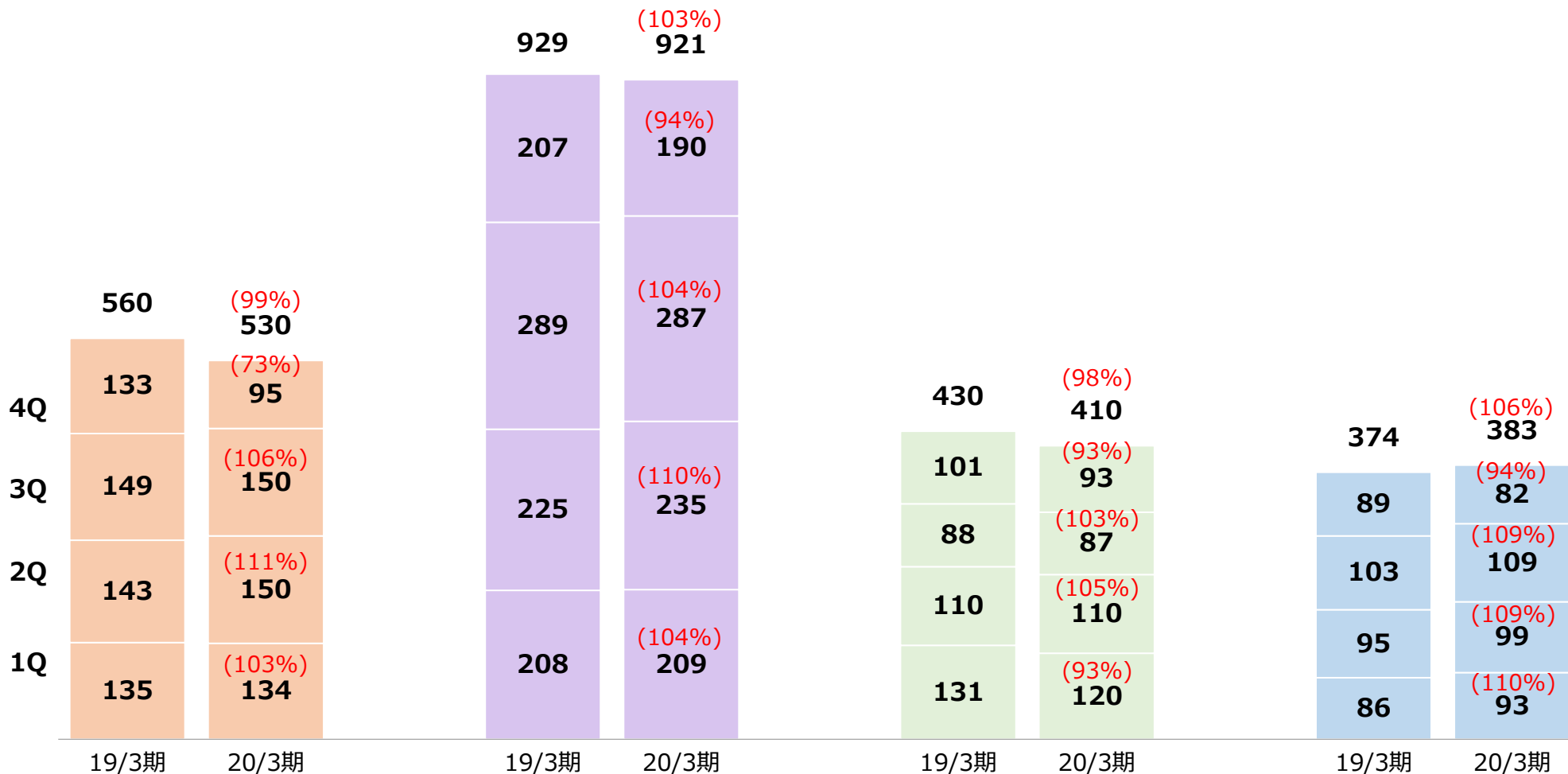
## ピアノ

## 電子楽器

## 管楽器

## 弦打楽器

(億円)

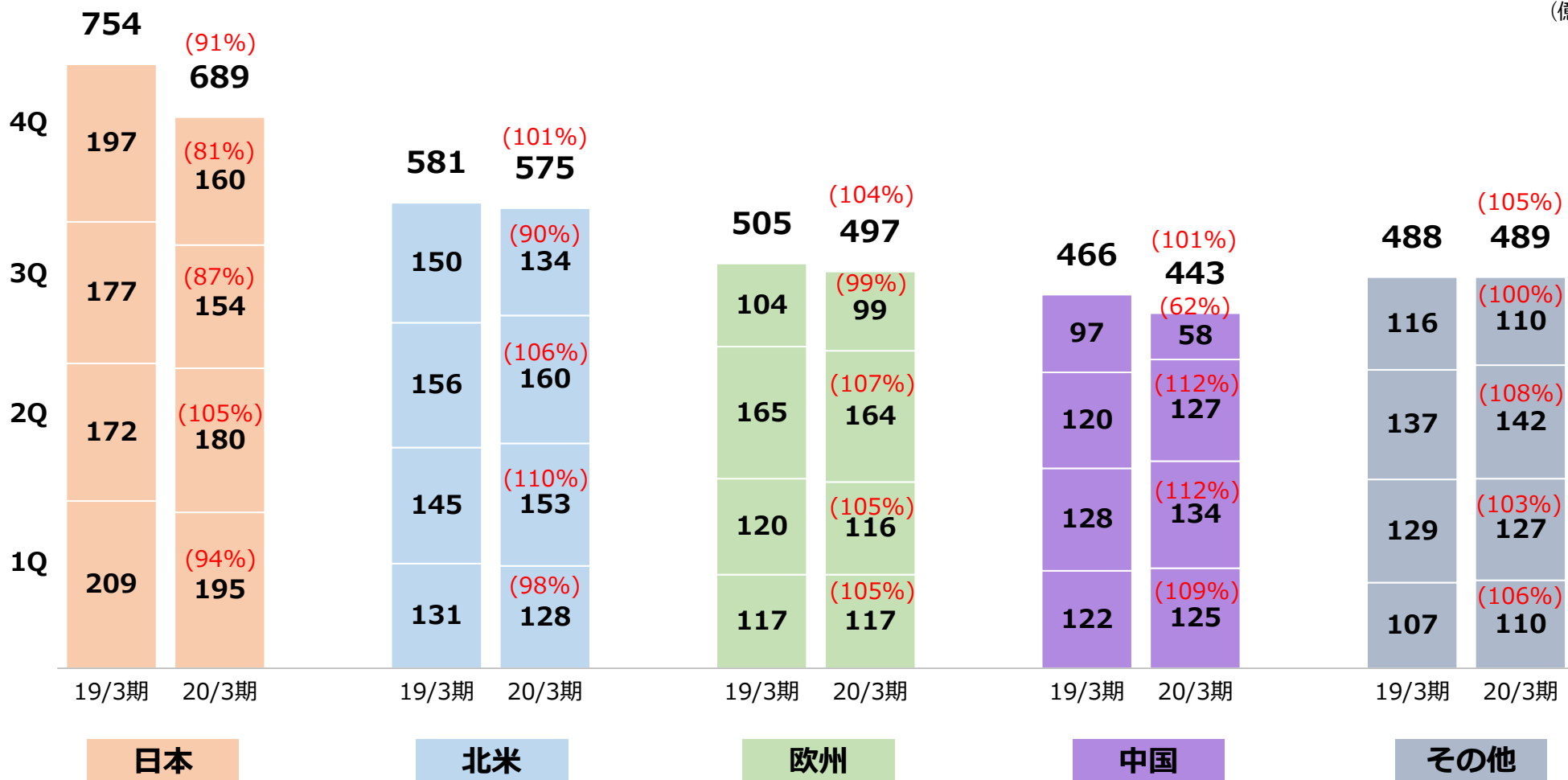


( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

\* 弦打楽器は、19/3期よりLine6・Ampegブランド売上を含む

# 地域別販売状況

(億円)



※ソフト、音楽教室等を含む

( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

# 個性際立つ商品の開発

## 幅広い技術を融合した個性的な商品群

電子ピアノ Clavinova  
『CVP-800シリーズ』



『CVP-809PE』

ステージキーボード  
『YC61』



ミニキーボード  
『Remie (PSS-E30)』  
『PSS-A50』



上から『Remie』 『PSS-A50』



最新鍵盤と多彩な音色、臨場感ある自動伴奏を搭載  
本格的な演奏感とリアルなアンサンブル体験

“本物”を追求した新開発の「VCMオルガン音源」、  
演奏者が求めるタッチを追求し開発した新鍵盤を搭載

子どもの知育に  
最適なモデル

クリエイティブな演奏を  
楽しめる高機能モデル

# 個性際立つ商品の開発

## 幅広い技術を融合した個性的な商品群

### エレキギター 『PACIFICA112シリーズ』



2020 Spring New Color  
 ・ United Blue  
 ・ Vintage White  
 ・ Gray  
 ・ Ice Blue  
 ・ Sonic Pink

各市場で好評のPacificaシリーズに新色登場  
 入門機種ながら幅広いサウンドを提供

### エレクトリック ナイロンストリングス ギター 『NXシリーズ』



最新の音響解析シミュレーション技術を駆使  
 豊かな鳴りと温かみのあるサウンドを実現

### サイレントベース 『SLB300』



世界のトップジャズプレーヤーの意見を反映  
 ライブステージに最適な機能、演奏感を追求



# 個性際立つ商品の開発

## ブランド価値の高揚、ヤマハの成長を支えるYamaha Design

国際的に権威ある独デザイン賞  
 「iFデザインアワード」「Red Dotデザイン賞 プロダクトデザイン2020」  
 受賞商品

ステージピアノ  
 『CP88/CP73』



ショルダーキーボード  
 Sonogenic  
 『SHS-500』



アコースティックギター  
 『STORIA』



「本物」の音色、鍵盤タッチ、  
 直感的な新インターフェイス



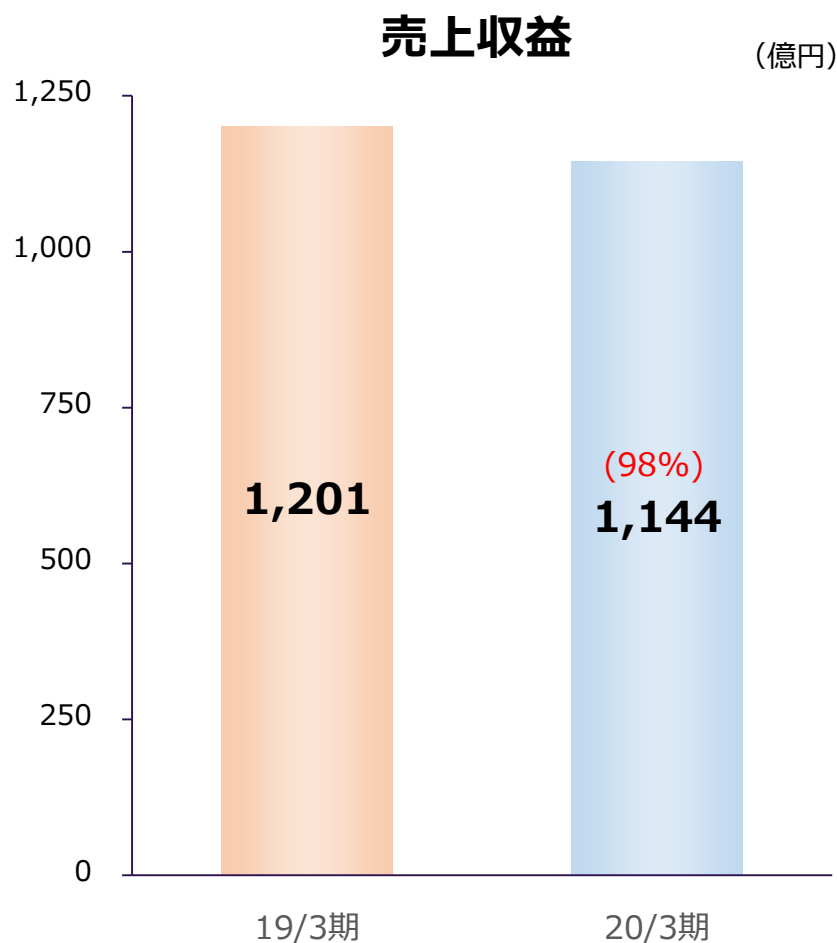
エンターテインメント性に優れた  
 新しいタイプの楽器



多様なライフスタイルに寄り添うデザイン  
 演奏性、音色を追求



# 売上収益・事業利益

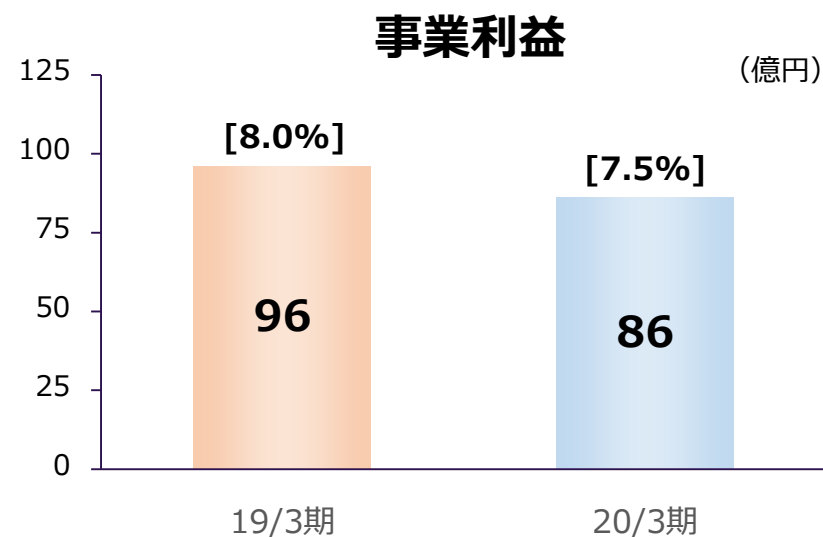


( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[20/3期] AVは前年下回るも、PAは増収確保

- ・AVはレシーバーの市場縮退、北米で新型コロナ影響により出荷進まず減収
- ・PAはライブ市場苦境、設備市場向け納入延期もあり減速
- ・ICT他はUC\*需要増、中国OEM減影響出るも想定通り

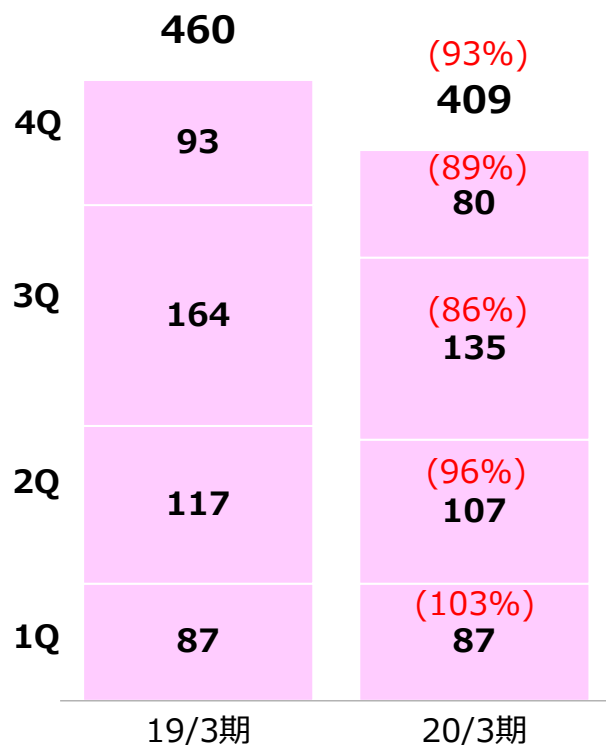
\*UC:会議システム



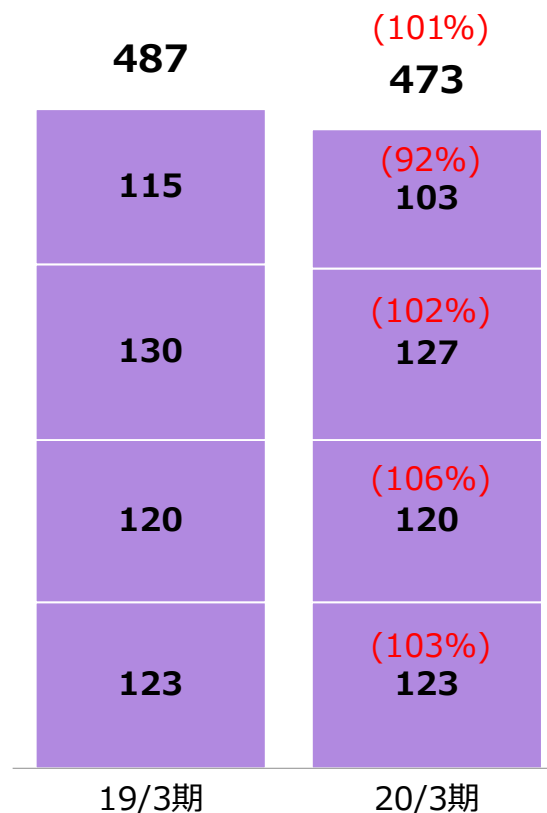
[ ]内は事業利益率

# 主要商品 販売状況

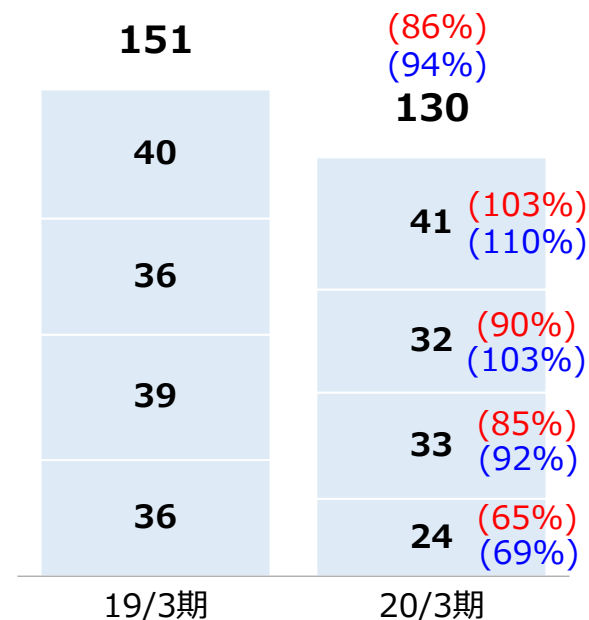
## AV機器



## PA機器



## ICT機器



(億円)

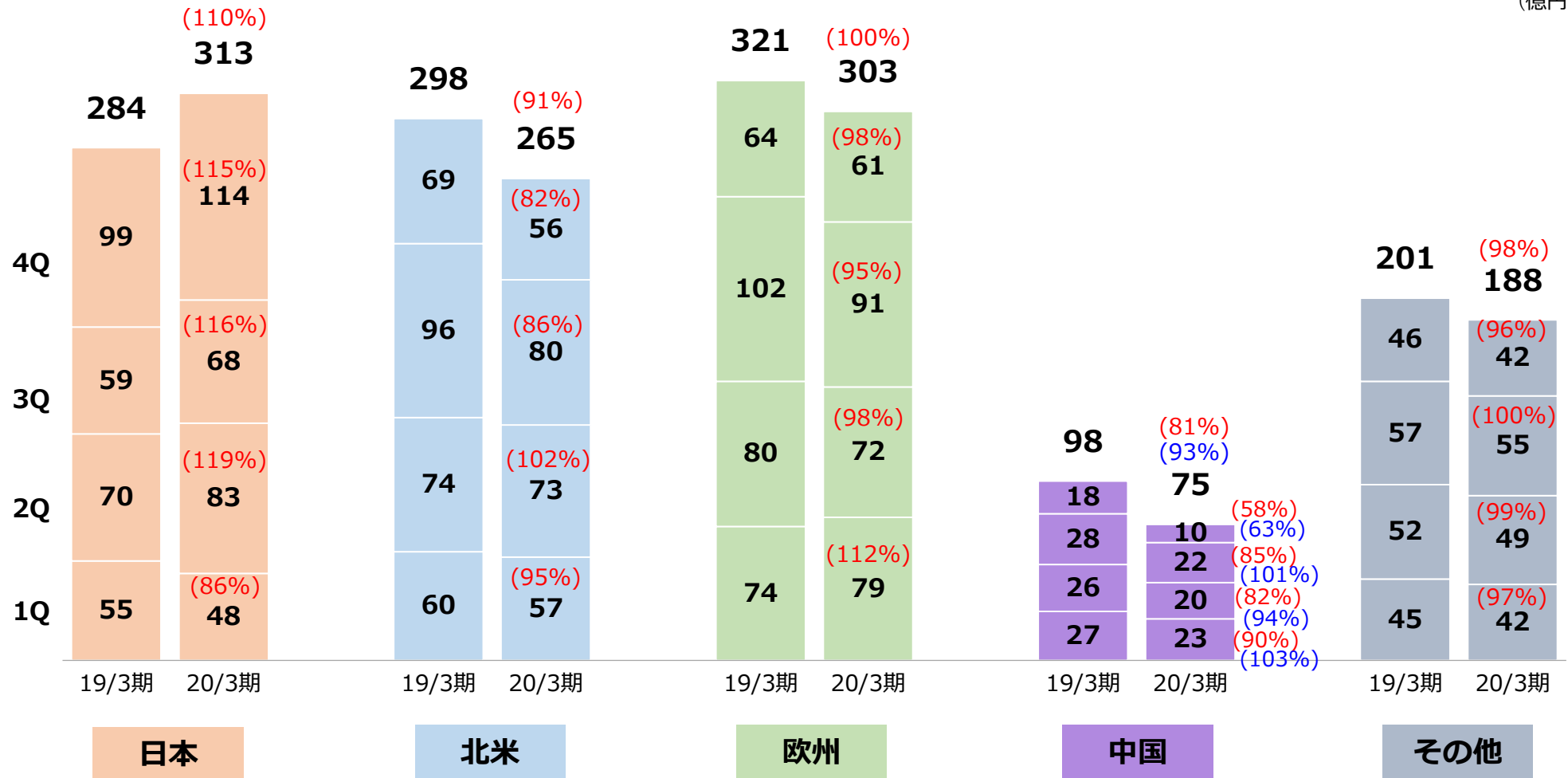
※PA機器はハード売上収入のみ（設備工事を除く）

( )内はOEM向けを除いた前期比増減

( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

# 地域別販売状況

(億円)



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

( )内はOEM向けを除いた前期比増減

# 個性際立つ商品の開発

## 多様なニーズに応える商品展開

完全ワイヤレスBluetooth®イヤホン  
『TW-E3A』



ヤマハプリメインアンプ  
『A-S3200』 『A-S2200』 『AS1200』



『A-3200』

NEXO スピーカーシステム  
Plusシリーズ『P10』 『P8』

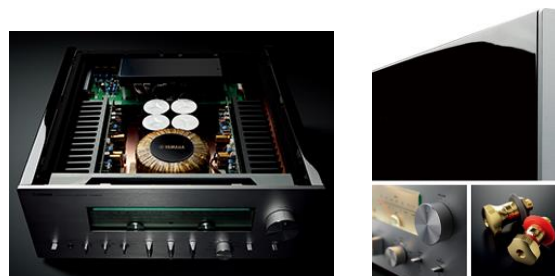


『P10』

『P8』



音量に応じて音のバランスを最適化  
ヤマハ独自技術「リスニングケア」搭載



フラッグシップシリーズの技術と思想を継承  
豊かな音楽体験と深い感動を提供



コンパクトでパワフル、多機能を有する  
高品質同軸ポイントソーススピーカー

# 個性際立つ商品の開発

## 多様なニーズに応える商品展開



音楽制作ソフトウェア  
『Cubase 10.5』



オーディオ編集、  
マスタリングソフトウェア  
『WaveLab 10』



楽譜作成ソフトウェア  
『Dorico Pro』  
『Dorico Elements』



オーディオ  
インターフェース  
『AXR4U』

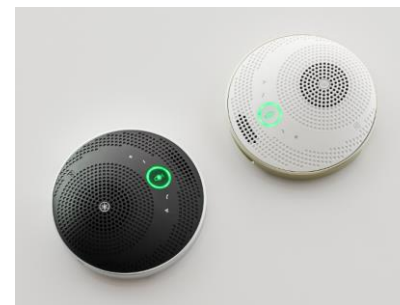
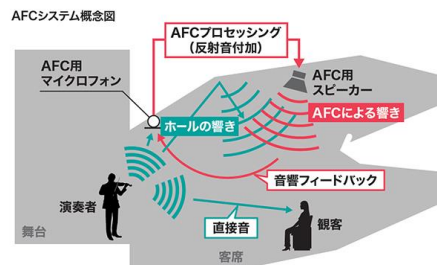


USBオーディオ  
インターフェース  
『UR24C』



音場支援システム『AFC4』

ホール・劇場や多目的な空間における響きを、用途に応じて変化可能



ユニファイドコミュニケーションスピーカーフォン『YVC-200』



新型コロナ影響下にて販売好調、リモートワーク生産性の向上をサポート

# 個性際立つ商品の開発

## 「日経コンピュータ パートナー満足度調査 2020」 ネットワーク機器部門において2年連続で第1位を獲得

ヤマハは、「日経コンピュータ 2019年8月22日号 顧客満足度調査 2019-2020 ネットワーク機器部門1位」に続いて、「日経コンピュータ 2020年2月20日号 パートナー満足度調査 2020 ネットワーク機器部門」において第1位を獲得しました。



※「運用性」「サポート」「コスト」が顧客企業から高い評価をいただきました。



※システムインテグレータやコンサルティング会社などのパートナー企業から「製品」「価格競争力」「収益性」などの項目で非常に高い評価をいただきました。

### 無線LANアクセスポイント 『WLX212』

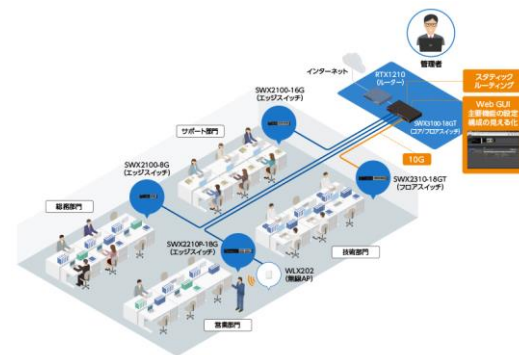


独自のクラウド型ネットワーク統合管理サービスに対応

### インテリジェントL2スイッチ 『SWX2310シリーズ』



さまざまなネットワーク規模に合わせたLAN構築と管理が可能

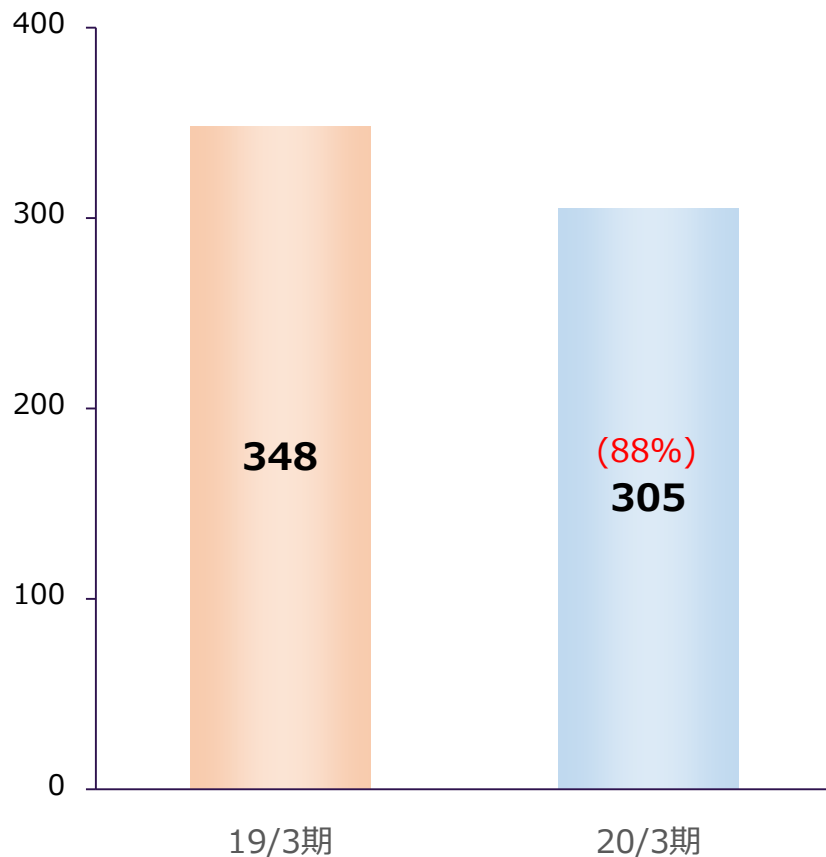


中規模以上のネットワークを利用するお客様へ  
“より安心・安全なネットワーク”を提供

# 売上収益・事業利益

## 売上収益

(億円)

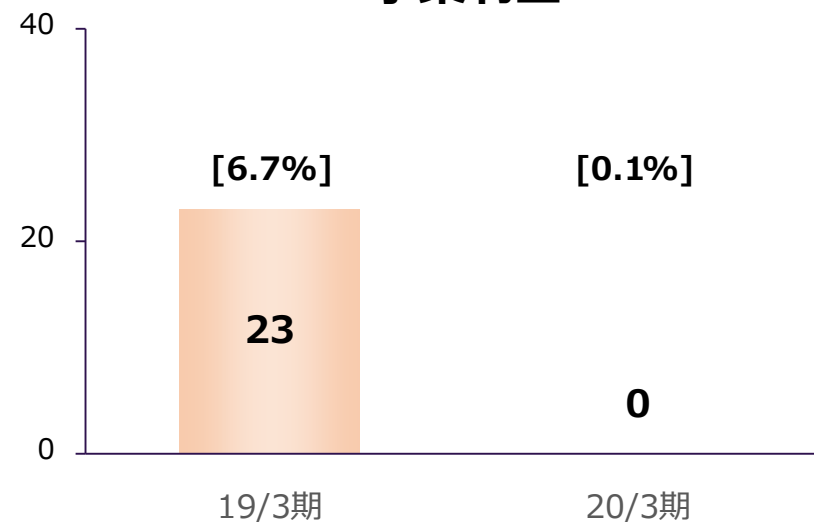


[20/3期]

・電子デバイスは前年上回るも、FA機器は市況回復せず前年特需に大幅に及ばず

## 事業利益

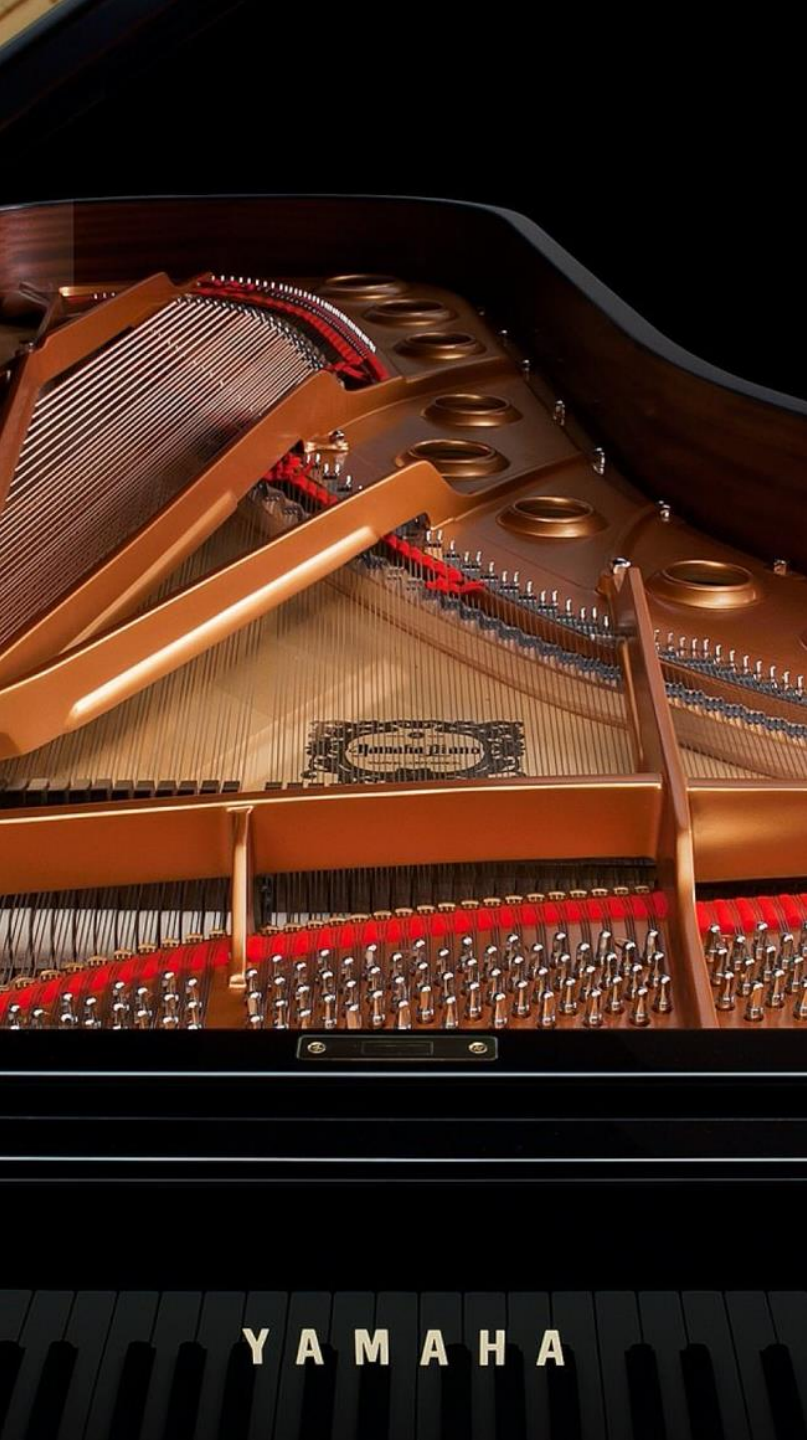
(億円)



( )内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[ ]内は事業利益率





## 3. その他財務数値

# 貸借対照表

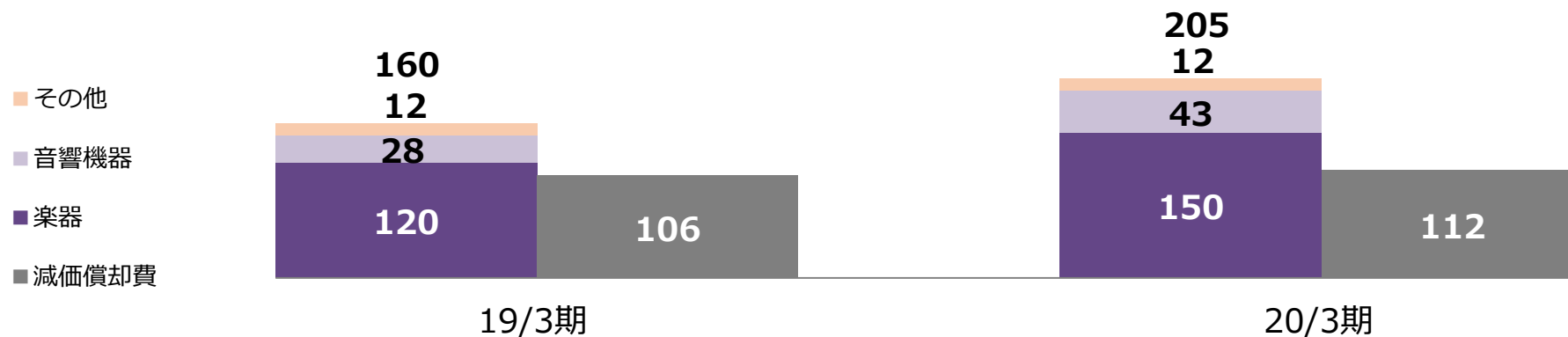
	19/3末	20/3末	増減
現金及び現金同等物	958	927	▲31
営業債権他	653	581	▲73
その他金融資産	105	129	+24
棚卸資産	1,010	1,001	▲9
他流動資産	101	65	▲37
非流動資産	2,331	2,038	▲293
<b>資産計</b>	<b>5,159</b>	<b>4,740</b>	<b>▲419</b>
流動負債	1,004	991	▲13
非流動負債	565	484	▲80
資本計	3,590	3,265	▲326
<b>負債及び資本計</b>	<b>5,159</b>	<b>4,740</b>	<b>▲419</b>

(億円)

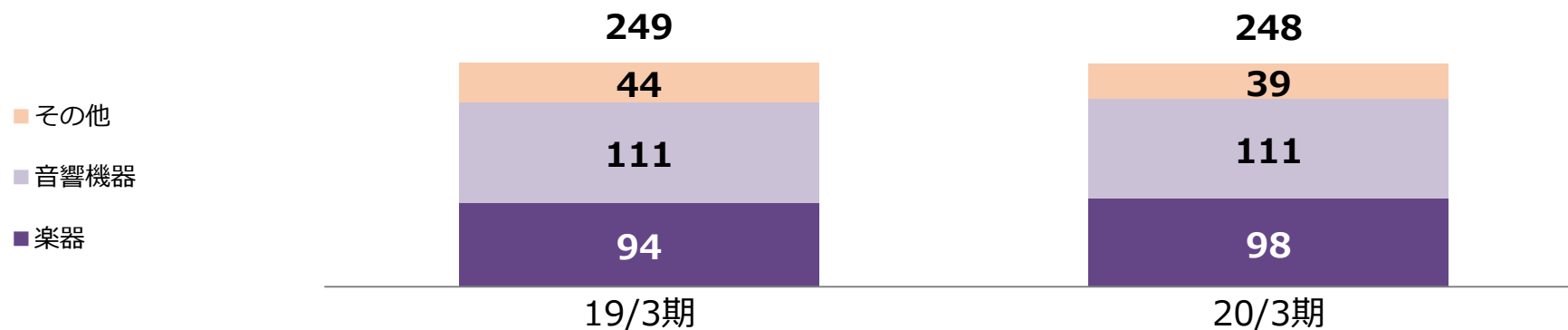
# 設備投資額・減価償却費/研究開発費

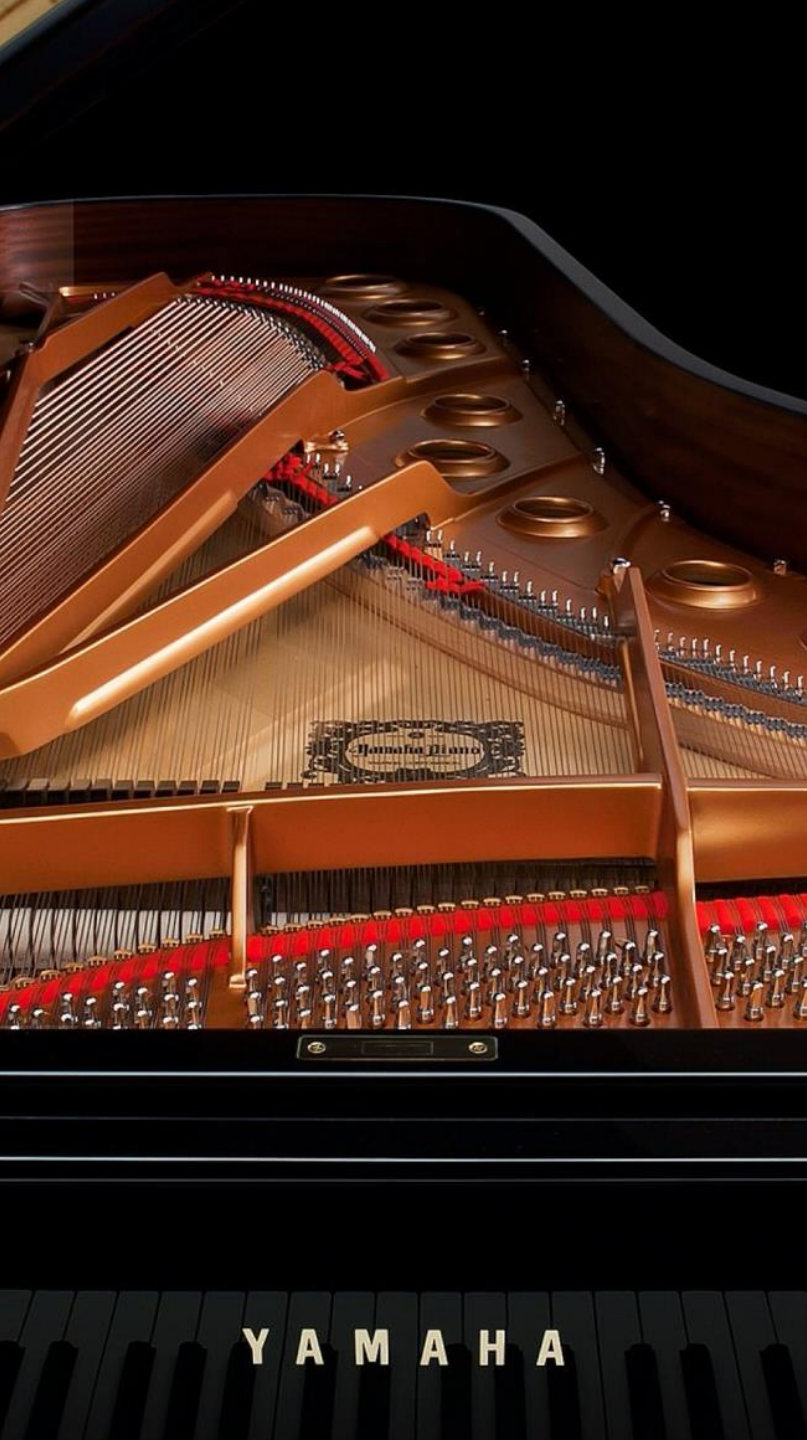
## 設備投資額/減価償却費

(億円)



## 研究開発費





## 4. ESGの取り組み

# Environment 環境

## 持続可能な木材調達のための取り組み ～持続可能な森林から産出される認証木材の利用拡大～

2020年3月期末 認証材採用率28%を達成

これまでの調査・交渉により、2021年3月期末には46%まで向上見込  
中計目標である50%に向け順調に推移



現地調査の様子

## 環境に配慮した製品づくりを推進

～環境配慮の自社基準を満たした製品を、ヤマハエコプロダクツと認定～

2020年3月期目標の40モデルを越える、46モデルがエコプロダクツに認定（累計425モデル）



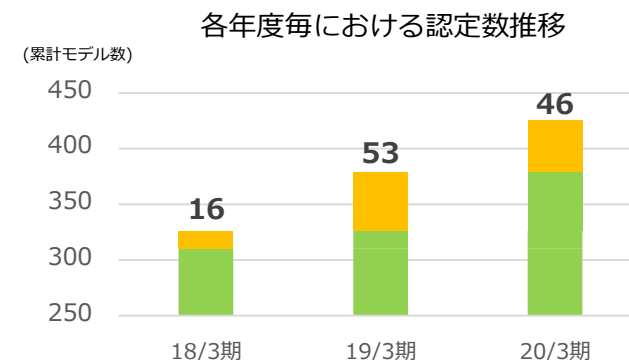
インテリジェントL2スイッチ  
『SWX2310シリーズ』  
認定理由：省エネ性  
(省エネ法 エネルギー消費効率  
基準125%以上達成)



デスクトップオーディオシステム  
TSX-B237  
認定理由：省エネ性  
(ネットワーク待機時消費電力削減)



デジタルミキサー  
RIVAGE PM5  
認定理由：軽量化  
(主要材料変更による大幅な軽量化)





# Social 社会

## 新興国での器楽教育普及活動が着実に進展

### ～楽器演奏人口増加に向けた「School Project」の拡大～

一人でも多くの児童が器楽教育に触れることのできる環境をつくるため、新興国の公教育(小学校)に楽器・教材・指導ノウハウをパッケージとして提供



#### ■ School Project 展開国



#### ■ 受講生徒数(累計)の推移

	生徒数
19年3月期	26万人
20年3月期	39万人

#### ■ その他地域 (エジプト)

JICA「SDGsビジネス支援事業～案件化調査 (SDGsビジネス支援型)～」に採択決定

[https://www.jica.go.jp/press/2019/20200205\\_10.html](https://www.jica.go.jp/press/2019/20200205_10.html)

# Social 社会

## 『SoundUD推進コンソーシアム』が「IAUD国際デザイン賞2019 大賞」を受賞

～ 当社関連施策としては初の大賞受賞 ～



### 「IAUD国際デザイン賞」

ユニヴァーサルデザインの普及と支援のために2010年にIAUDによって創設されたもので、2018年度より「IAUDアワード」から「IAUD国際デザイン賞」と名称をあらため、民族、文化、慣習、国籍、性別、年齢、能力等の違いにかかわらず、“一人でも多くの人々が快適で暮らしやすい”UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を国際的に表彰しています。

### 『SoundUD推進コンソーシアム』

言語や聴力への不安がない社会づくりを実現することを目的に設立された当社を事務局とするコンソーシアム。現在では、自治体、交通機関、商業施設、エンターテインメント、競技場、放送など、業界を超えた約300もの組織が参加。



### 事例紹介 リモート応援システム 『Remote Cheerer powered by SoundUD』



ご自宅でテレビやネット中継を見ながらスタジアムに声援を届ける新技術

左図：2020年5月 実証実験時の模様

－ 当社グループが実践する従業員の健康管理に関する取り組みを評価 －

## 「健康経営優良法人2020 ～ホワイト500～」に認定



経済産業省・日本健康会議が主催する「健康経営優良法人認定制度」の大規模法人部門において、特に優良な健康経営を実践している企業として認定を受けました。

ヤマハ(株)は4年連続、(株)ヤマハコーポレートサービスは3年連続の認定となります。



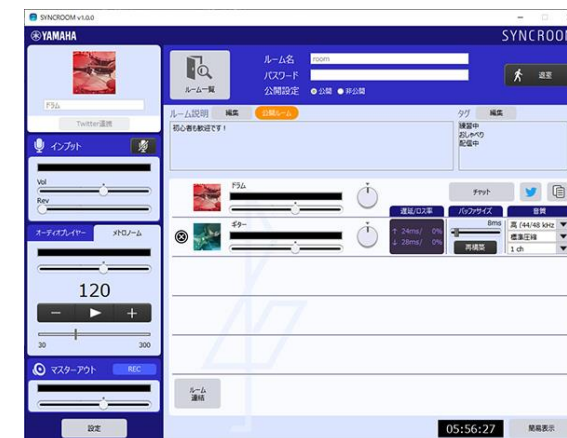
# Social 社会

## インターネット回線を介して遠隔地間の音楽合奏を実現

ご自宅からでもみんなで合奏が楽しめる、オンライン遠隔合奏サービス

離れていてもご自宅などから複数人で合奏が楽しめる

オンライン遠隔合奏サービス『SYNCROOM (シンクルーム)』を2020年6月に正式公開



現行サービスであるNetduetto βは、StayHome需要からユーザーが急増  
遠隔地間の音楽合奏の実現、豊かな音楽文化の創造を目指します (サービス利用は無償)

# Governance ガバナンス

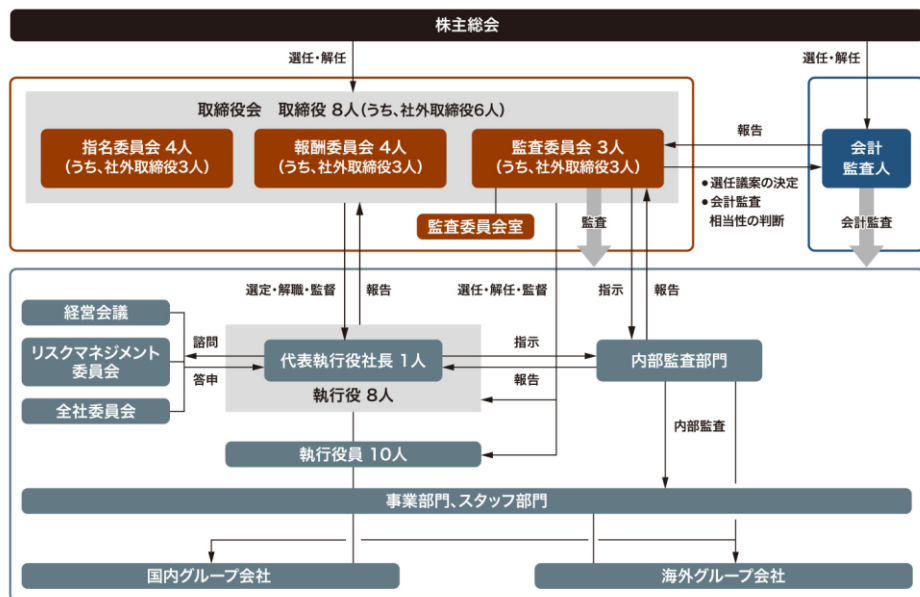
## 監査役員の新設

【新設の趣旨】

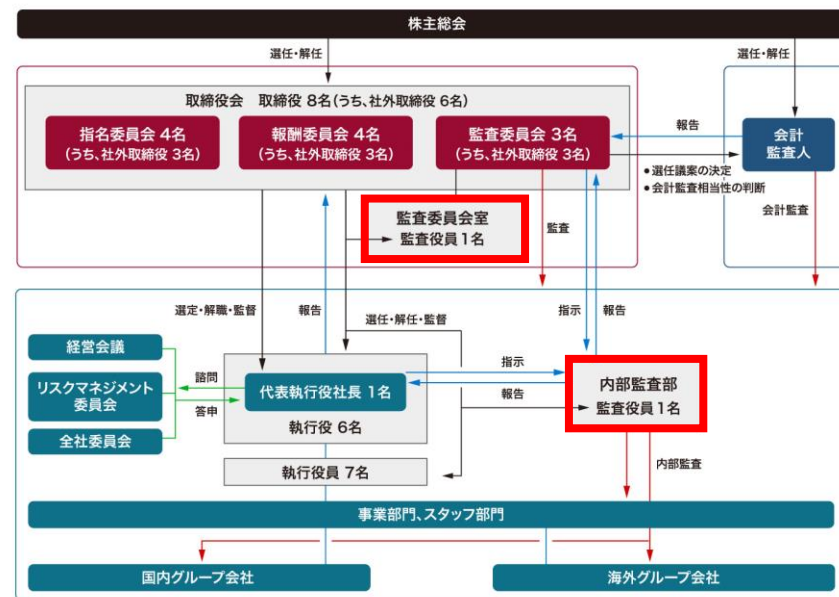
監査機能強化のため、執行役員と同格の経営陣メンバーとしてヤマハグループにおける監査機能を担う「監査役員」を新設いたしました。

【新設時期】

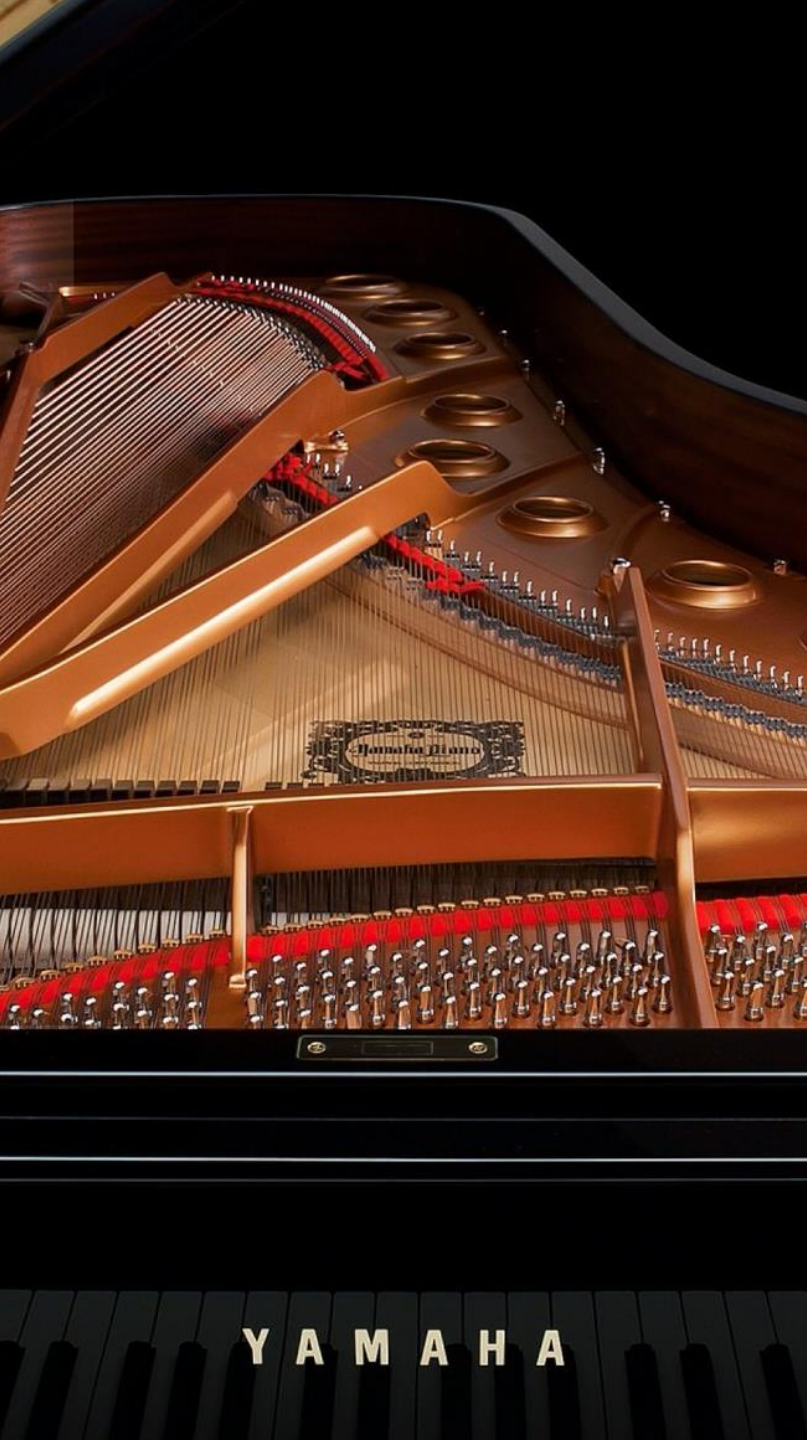
2020年4月1日付



2020年3月31日以前



2020年4月1日以降  
監査委員会室、内部監査部に監査役員を1名ずつ設置



## 5. 株主還元

# 自己株式取得及び配当

## 自己株式取得

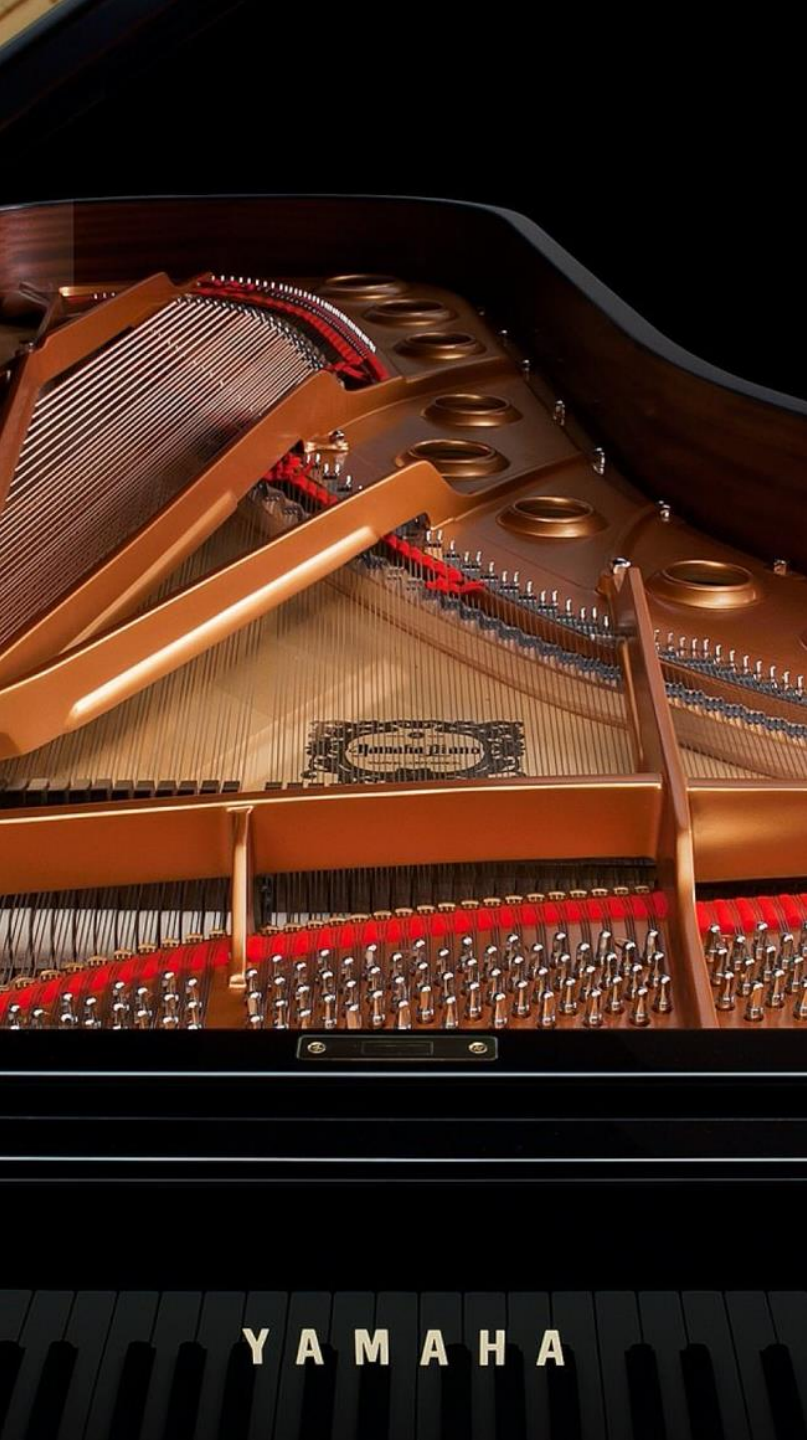
【理由】	株主還元と資本効率の向上を図るため
【取得期間】	2019年11月5日～2020年2月20日
【取得総数】	2,534,800 株
【取得総額】	14,999,927,963 円

## 配当・配当性向

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3 <sup>*3</sup>	20/3
1株あたりの 年間配当	27円	36円	44円	52円	56円	60円	66円
配当性向	22.8%	28.0%	26.1%	20.9% <sup>*1</sup>	19.2% <sup>*2</sup>	27.0%	33.9%

\*1 繰延税金資産計上を含む \*2 ヤマハ発動機(株)株式の一部売却による売却益を含む \*3 19/3以降はIFRS





# 付属資料

# 2020年3月期 4Q業績概要

		19/3	20/3	前期比	
売上収益		1,027	<b>916</b>	▲110	▲10.8% <sup>*2</sup>
事業利益 (事業利益率)		78 (7.6%)	<b>40</b> (4.3%)	▲39	▲49.8%
当期利益 <sup>*1</sup>		66	<b>19</b>	▲48	▲71.5%
為替レート (円)					<sup>*2</sup> ▲8.9% (為替影響除く)
売上収益 (期中平均)	US\$	110	<b>109</b>		
	EUR	125	<b>120</b>		
利益 (決済レート)	US\$	110	<b>109</b>		
	EUR	130	<b>120</b>		

\*1 親会社の所有者に帰属する当期利益

# 2020年3月期 4Q事業別実績

(億円)

		19/3	20/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上収益	663	560	▲102	▲13
	事業利益	70	30	▲40	▲9
	事業利益率	10.6%	5.3%	▲5.4P	
音響機器事業	売上収益	296	282	▲14	▲6
	事業利益	15	15	▲0	▲3
	事業利益率	5.0%	5.1%	+0.1P	
部品・装置 その他の事業	売上収益	68	74	+5	▲0
	事業利益	▲6	▲5	+2	▲0
	事業利益率	▲0.1%	▲0.1%	0P	



# 通期 その他収支等

		19/3	20/3
<b>事業利益</b>		<b>527</b>	<b>464</b>
その他収益・費用収支	固定資産処分損益	▲3	3
	その他	3	▲33
	計	1	▲30
<b>営業利益</b>		<b>528</b>	<b>433</b>
金融収支計	受取配当金	38	37
	その他	▲1	2
	計	37	39
<b>税前利益</b>		<b>565</b>	<b>472</b>
法人所得税費用		161	125
非支配株主利益		0	1
<b>当期利益*</b>		<b>403</b>	<b>346</b>

(億円)

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。